

# 特別展示 外洋の貝塚 「双葉町郡山貝塚」出土品

～ 関山式土器を出土する外洋のムラ ～

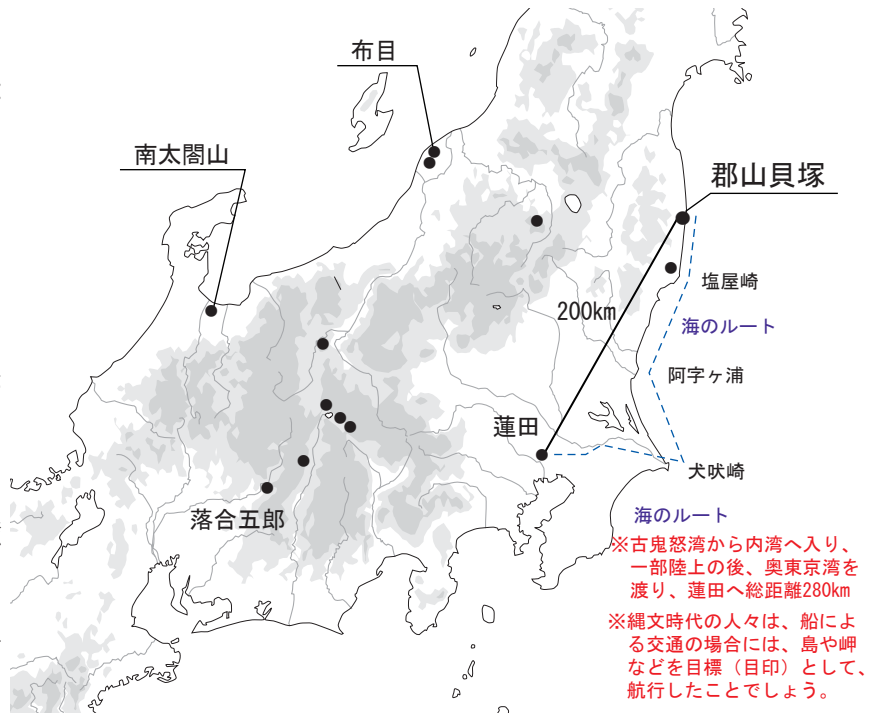
## 《 双葉町の文化財 》

福島県双葉郡双葉町は、福島県の太平洋岸に面する 51.4 km<sup>2</sup>を測り、国指定文化財 1 件(史跡：清戸迫横穴)、指定文化財 1 件(天然記念物：前田の大杉)、町指定文化財 6 件、埋蔵文化財包蔵地 144 ケ所があります。

清戸迫横穴は 300 基以上ある横穴墓群の一つで、正式名称は「清戸迫 76 号横穴墓」です。

遺跡は、古くから清戸迫丘陵地にその存在が知られていた円墳・横穴群で、1967 年(昭和 42 年) 11 月、双葉町立南小学校の新築に伴う敷地造成工事にかかる発掘調査が行なわれ、横穴墓群の一部を発掘調査した際に 76 号横穴墓から玄室奥壁に保存状態の良いベンガラ(赤色顔料)によって描かれた壁画が発見されました。

壁画は、発見当初は彩色壁画の北限(現在は宮城県大崎市川北横穴墓群)で、壁画に描かれているのは、正面左側の人物は冠帽や美豆良(髪形)が見られ、袴を着用し靴を履いています。中央には 7 重の右回り渦巻文が描かれていますが、これが何を象徴しているのかは不明です。渦巻文右側の人物は兜をかぶって左手を挙げており、その左側に馬を従えています。その他、弓矢を射ている人物をはじめ、イノシシ、鹿、犬などが描かれています。この横穴墓の築造年代は 7 世紀前半と考えられます。なお、現在も双葉町立南小学校の敷地内に保存されています。



第 1 図 蓮田市と郡山貝塚並びに関山式土器、黒浜式土器が出土する遠隔地の遺跡



第 2 図 郡山貝塚

地する福島県内でも最も古い貝塚の一つで、約 5,800 ～ 6,000 年前の貝塚と考えられます。

蓮田の地からは、第 1 図のとおり直線距離で約 200 km の距離にありますが、船による交通の場合には、島や岬などを目標(目印)として航行し、銚子岬から古鬼怒湾から内湾へ入り、一部陸上した後、奥東京湾を渡り、蓮田へ総距離 280 km の行程が想定されます。

この地域の土器は、宮城県宮城郡七ヶ浜町大木囲貝塚出土土器を標式とする「大木 2 式土器」が主体となるところですが、発掘された土器では、関山式～黒浜式土器への系譜が色濃いものが多く出土しています。

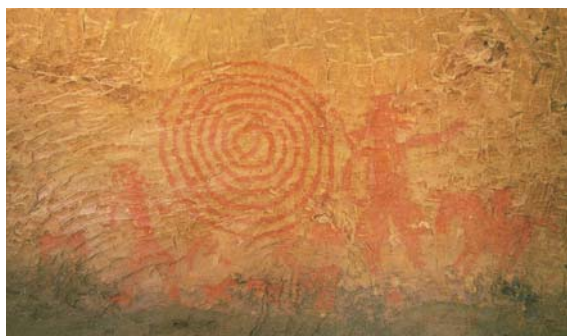


写真 1 清戸迫 76 号横穴墓彩色壁画

町指定文化財は、新山城跡、鴻草磨崖仏、両竹磨崖仏、目迫観音堂十一面観音坐像、寺内前観音堂阿弥陀如来坐像、十三仏画の 6 件です。

## 《 郡山貝塚と蓮田 》

郡山貝塚は、福島県双葉郡双葉町大字郡山字塚ノ腰に所在し、前田川水系の標高 20m を測る台地上に立

## 《 関山式系統の土器 》

この土器は、縄文にくみももん「組紐文」と呼ばれる縄文が付けられています。関山式土器に特



写真2 郡山貝塚出土の関山式系統土器

徴的な縄文で、市内では国指定史跡黒浜貝塚の市役所側に位置する椿山遺跡から多く発見されています。

## 《 黒浜式系統の土器 》

この土器は、関東地方で出土する黒浜式土器の「大型菱形文系土器」と呼称される系譜と考えられます。

沈線により菱形状の文様が描出されています。関東地方で出土するこの系統の土器と若干異なる



写真3 郡山貝塚出土の黒浜式系統の土器

点は、文様部分が関東地方の土器では上下とも半截竹管による平行沈線などにより区画されるものが一般的ですが、この土器では縄文のみです。

## 《 サメの歯の垂飾 》

メジロザメの歯製垂飾（ペンダント）です。歯痕とエナメル質の境に円孔を穿ち、エナメル質の部分を強調するようにペンダントとしているようです。



写真4 サメの歯製垂飾

遺跡からはこの他にホオジロザメの歯製品が出土しており、垂飾もしくは刺突具として利用されたと考えられます。なお、蓮田市内からはサメ歯製品は現在検出されておらず、埼玉県東部地域でも松伏町本郷遺跡からサメの歯は検出されていますが、垂飾はまだ発見されていません。

## 《 骨角製品 》

郡山貝塚からは鹿角製の「釣り針」、「針」、「刺突具」などの未製品や魚骨製の「針」、獣骨製の「垂飾」、猪牙製品など多くの骨角器などと呼ばれる骨製品が出土しています。

蓮田市では、鹿角製「釣り針」、「針」は発見されていませんが、東部地区では発見されています。なお、蓮田市内では「刺突具」は発見されていますが、東部地域を併せても「針」は今まで発見されていません。



写真5 釣り針

ただし、蓮田市を含めた東部地域では、軽石製の「浮子」が多く発見されていますが、郡山貝塚からは発見されていないことも特筆されます。



写真6 蓮田市出土軽石製浮子

## 《 石器類 》

郡山貝塚からも、蓮田市の前期遺跡と同じような石器が数多く発見されていますが、多くの石器類には違いは見取れませんが、一部に若干の違いが見られます。特に石匙（第7図）は、蓮田と比較すると縦型のものが多く、横型のものは1点のみです。この傾向は蓮田市とは逆転していますが、元々縦型の石匙は東北地方に多く、横型の石匙は関東地方に多いとされていることとは齟齬はないようです。また、塊状耳飾も市内のものと差異はありません。



写真7 石匙



写真8 塊状耳飾

## 《 その他 》

貝類は、郡山貝塚では、岩礁に生息するものが多くみられることは蓮田市とは異なり、『外洋性貝塚』の特徴として捉えることができます。また、海辺に面しているにも拘らず、淡水・汽水生の貝類や魚骨（コイ・フナなど）が発見されることは、北側の谷筋を流れる前田川流域まで生活圏として取り入れていることを伺い知ることができ、双葉町郡山貝塚の縄文人達も蓮田市の黒浜貝塚と同様に、周辺的生活基盤を上手に活用していたことを伺い知ることができます。

協力： 福島県双葉町教育委員会

## 引用参考文献

- 福島県双葉町教育委員会 1990「双葉・郡山貝塚の研究」双葉町埋蔵文化財調査報告 第7冊
- 田中和之 2008「羽状縄文系土器」『総覧縄文土器』小林達雄編 『総覧縄文土器』刊行委員会
- 早瀬亮介 2008「前期大木式土器」『総覧縄文土器』小林達雄編 『総覧縄文土器』刊行委員会